令和四年度「家庭の日」作文コンクール入賞作品

最優秀賞

ねる前のしあわせな時間

鳥取市立修立小学校　二年　河上　瑛都

一日がおわってふとんに入るとき、きっとみんながほっとする時間だと思います。ぼくもこの時間が大すきで、とくべつな、心がぽかぽかする時間です。

ぼくの家ぞくは、四人家ぞくです。はしからお父さん、ぼく、お母さん、妹のじゅん番でねています。いつも右手はお父さん、左手はお母さんとつなぎます。手のぬくもりがつたわってあん心するので、小さいときからつづけています。たまにお父さんが先にねることもあって、いつもおしごとおつかれさまと思いながら、ぎゅっとにぎります。さい近は、こっそりお父さんとお母さんの手をつながせています。くらいから、二人はぼくとつないでいると思って、気づいていません。ぼくは、こっそりわらっています。気づいたときは、みんな大わらいです。ねる前の、しあわせな時間です。

この時間がずっとつづけばいいなと思います。家ぞく四人がそろった時間は、ぼくにとってとても大切です。でもぼくが大きくなると、きっと一人でねるときがくるでしょう。そのとき、一人ふとんの中で、あのときはしあわせだったなあと思い出すでしょう。ねる前にすきな本を読んでもらったり、しりとりをしたり、じゃんけんをしたり。一日のおわりに楽しい時間があると、心がほっとして今日がおわります。今は当たり前のことが、当たり前じゃなくなるときがくるでしょう。でも楽しかったことやしあわせだった時間は、思い出として心の中にずっとのこるはずです。今は家ぞくとの時間をたくさんすごして、心の中に思い出をいっぱいつくりたいです。

ずっと家ぞくみんなでねられるといいな。ねる前時間があったら、二さつずつ本を読んでもらえるといいな。家ぞく四人でいる時間が、どんどんふえるといいな。ぼくの大すきな時間が、これからもずっと、つづきますように。